

令和6年度（中教育事務所）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（公務外非行の防止）	法令遵守の意識を高め、常に教育公務員としての自覚を持って、職場を離れても綱紀保持に努める。	○所員の体験をもとに、事故不祥事防止発表会（ヒヤ・ット発表会）を全所員輪番で行った。職場内はもちろん私的な時間においても、公務員としての自覚を常に持ち、法令を遵守した節度ある行動がとれるよう、互いの経験等からの話題提供を行ったこと、所員の人間関係作りとしても大変有意義であった。 ○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（コンプライアンス意識の醸成、県公立学校教職員の倫理に関する指針）をもとに、服務・規律について再確認することができた。
わいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ行為に起因する事故、セクハラに起因する事故を未然に防止する。	○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（STOP! ザ・セクハラ/わいせつな行為）をもとに確認した。 ○管理職が率先して言葉がけをすることにより、常に互いのコミュニケーションを大切にし、話しやすく相談しやすい職場環境づくりに努めた。
会計事務等の適正執行	適正な経理処理を行い、通帳類の金庫保管を徹底する。	○関係書類の進行管理を徹底した。 ○定期的に金庫内の保管確認を行った。 ○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（適切な私費会計の取扱い）を所員で確認した。
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ）の防止	職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）のない風通しの良い職場環境づくりをめざす。	○「人権に配慮した職務遂行計画」において、全所員を対象にした「所内人権教育研修会」を行うことで、所員の考え方や人権感覚、態度、行動について振り返る機会となった。 ○管理職が率先して言葉がけをすることにより、常に互いのコミュニケーションを大切にし、相談しやすい職場環境づくりに努めた。 ○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（職場のハラスメント防止）をもとに、職員が能力を十分に発揮できるような良好な勤務環境づくりを促進することについて再確認することができた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	通いなれた道であっても常に交通法規を遵守し車両運転でも徒歩でも交通安全に努める。 深酒を慎み適量を心がけ、翌朝まで持ち越さない。酒席では帰宅方法の確認を相互に行う。	○所員が経験したことや交通事故と飲酒運転に特化した事例を紹介しその影響を確認した。 ○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（飲酒運転等の根絶に向けて）を所員で再確認した。

個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の漏洩や流失を未然に防止する。	<p>○個人情報の把握と管理に万全を期し、情報の漏洩に細心の注意を払った。</p> <p>○必要以上の個人情報は、その収集を避けた。</p> <p>○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（個人情報の適切な取扱い・情報セキュリティ）をもとに、個人情報の漏洩・滅失、行政文書の意味について再確認することができた。</p>
業務執行体制の確保	<p>複数職員によるチェック体制の一層の強化を図り、業務上の事故・不祥事ゼロを目指す。</p> <p>所員に5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を徹底し、適正且つよりよい業務の遂行に努める。</p>	<p>○主体的な運営による「事故不祥事防止発表会（ヒヤリ・ホット発表会）」により、不祥事防止に対する意識の向上を図ることができた。</p> <p>○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（円滑な業務執行のための情報共有）をもとに職場研修を実施し、組織としての業務遂行の大切さを再確認することができた。</p> <p>○神奈川県教育委員会不祥事防止職員啓発・点検資料（適切な県民応対・保護者応対）をもとに職場研修を実施し、真心をもって明るく正確・公平公正に対応する基本姿勢「三つの心構え」を再確認することによって、組織として様々な視点で配慮することの大切さを再確認できた。</p>

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題
(所属長意見)

事故不祥事防止発表会（ヒヤリ・ホット発表会）及び職員啓発・点検資料を基にした職場研修の実施により、不祥事を自分事と捉え、不祥事防止に対する職員の意識の向上を図ることができた。

また、業務執行体制のさらなる確保に加え、各課のそれぞれの業務について職員のメリハリのある働き方に向けて、今後、ワークライフバランスをどのように取っていくかが課題である。そのことが結果として不祥事を起こしにくい職場づくりにつながると考える。